

ショートコメント vol.75 (2017年6月28日)

テーマ：伸び率の鈍化が懸念される訪日客数

～6月の前年比が1ケタ増にとどまれば要注意～

●5月の全国の訪日数は過去最高を記録

日本政府観光局（JTO）の発表によると、5月の全国の訪日客数は前年比21.2%増の229万4700人となった。5月としては過去最高の人数を記録したほか、1～5月の累計は1141万人と、過去最速のペースで1千万人を超えた。

これをみる限り、訪日客数の動きは好調が続いている印象を受けるが、実は5月の21.2%の増加のうち、13.6ポイント分は韓国が占めている（図表1）。それを除けば1ケタ台の伸びにとどまることから、決して好調とは言い切れない。

●訪日数の伸び率にみられる鈍化傾向

熊本地震の発生に伴い、昨年4、5月は韓国からの訪日客数が大きく落ち込んだ。今年はその反動が全体を押し上げる形となっている。4月の訪日客数も、全体の増加率は23.9%であったが、そのうち9.6ポイントは韓国によるものであった。さらに、今年は花見を目的とした訪日が急増したため、この部分は突発的な動きとみる必要もある。

直近の4、5月だけではない。昨年の春節による反動減で低調となった2月は別として、3月も1ケタ台の伸びにとどまっている。結果として、3月から5月にかけての訪日客の動きは芳しくなく、趨勢として伸び率が縮小している可能性もある。

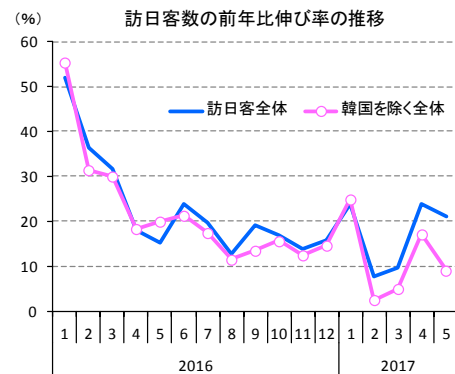
●注目が集まる6月の動き

その原因の一つは、中国からの訪日客のペースダウンである。2月から直近の5月まで、4か月連続で2%台の伸びにとどまっている（図表2）。昨年までとは様変わり状況であり、これが一過性の動きかどうかによって、訪日客数全体も左右されることになる。

一方、今後の注目点としては、やはり6月の動きが挙げられる。

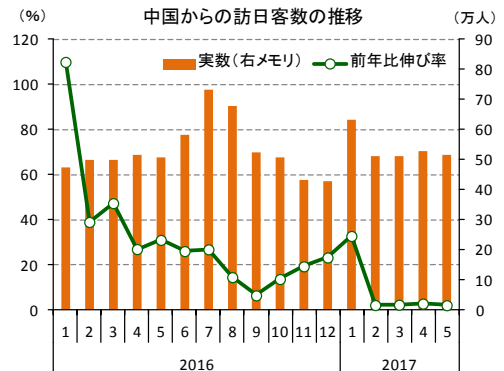
熊本地震に伴う訪日客への影響は、昨年4、5月でほぼ一巡したことから、6月の前年比は実態を反映した動きになると予想される。仮に、6月の増加率が1ケタ台にとどまるようであれば、訪日客数の動きの鈍化を心配する必要がある。

【図表1】



(出所)日本政府観光局「訪日外国人旅行者数」

【図表2】



(出所)日本政府観光局「訪日外国人旅行者数」

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。